

先般勳八等以下非役平民ノ輩賭博ノ私罪ヲ犯ストキ所分ノ儀相伺御
指令ノ旨有之候處勳七等以上非役輩右同様ノ罪ヲ犯ストキ所分ノ儀
未タ明例無之候條右ハ別紙明治十一年十二月二日御指令ノ旨有之候
得共是ハ追捕ノ所分ニシテ刑ノ所分ニアラス依テ今後準勅奏判ヲ分
タス總テ士族ニ準シテ所分可然哉此段仰御裁令候也

明治十三年六月一日

司法卿田中不二麻呂

太政大臣三條實美殿

拾遺 十三年七月一日

乙號

伺ノ通

明治十三年七月一日

十四年十二月十二日

静岡縣下演說者前島豊太郎犯罪處分

司法省伺

静岡裁判所詰檢事高津雄介ヨリ演說者前島豊太郎
犯罪處分方ノ儀ニ付別紙ノ通伺出候右ハ公然ノ演
說ヲ以テ乘輿ヲ讒毀シタル者ニ有之候處新刑法ニ
於テハ第百十七條ニ依リ不敬ノ所為アル者トシテ
處分スルキ者ニ有之候へ共現行ノ法律ニ於テハ之
ヲ罰スルノ正條ナキヲ以テ名例律斷罪無心條ニ據
リ讒謗律第二條ヲ援引處分シ可然哉此段相伺候至
急何分ノ御指令有之度候也
同ノ通 十四年十二月十二日
同 十四年十一月十九日

静岡裁判所伺 司法省宛

静岡縣駿河國有渡郡静岡兩替町四丁目十番地平氏
 前島豐太郎儀本月八日午後六時同郡静岡寺町小川
 坐場場ニ於テ事物ノ変遷ト題スル論題ヲ以テ公衆
 ニ向ヒ聖祖ノ御盛業ヲシテ大賊ナリト演説セシヲ
 臨場警察官於テ確乎聞取り證告シ来ルニ付捜査ヲ
 遂クル處該犯罪ノ趣意ヲ恐多クモ
 尊嚴ヲ犯シ奉リ以テ衆庶ヲシテ反意ヲ惹起セシム
 ル等常事犯罪者ト同視スヘキモノニ無之重大ノ件
 ニ付固ヨリ地方裁判所推外ノモノト存候ヘ共常事
 犯ト同シク當裁判所ハ公判ニ付シ可然哉且ツ該犯
 ノ如キハ何律ニ問擬ス可キモノナルカ法律ニ正條
 無之疑義ヲ生シ候ニ付為心得伺置度本犯拘留ノ儘
 一件書類ヲ添ヘ相伺候條併テ至急何分ノ御指揮有

之度候也 十四年十月廿一日

駿河國有渡郡静岡兩替町

四丁目十番地

平氏 前島豐太郎

四十五年四月

右者明治十四年十月八日午後第六時過駿河國有渡
 郡静岡寺町於小川座事物ノ變遷ト題スル論題ヲ以
 テ實ニ恐多クモ 聖祖ノ御盛業ヲシテ大賊ノ所業
 也ト現ニ拙者共ノ目前ニ於テ公衆ニ向ヒ別紙証告
 書之通 皇家ノ尊嚴ヲ犯シ奉リ以テ衆庶ニ反意ヲ
 起サシメ而シテ衆他ヲ團結シ國會ヲ興シ遂ニハ政
 府ヲ圖ルノ目的ト推測仕候右ハ邦家社稷ノ如何ニ
 モ可相関犯罪ニ付其現行ヲ認定シタル上作リタル



証告書并ニ調書及証憑書類等一束トシ本犯ト共ニ
及御交付候本犯豊太郎一應取調ニ相掛候、共其罪
惡規避陰蔽セシテ企テ現行ノ事ヲモ更ニ之ヲ為
サ、ル旨申立而レテ自カラ別紙ノ通始末書ヲ作リ
差出候、共右ハ全ク其現行ト相反シ申候其現行ノ
儀ハ批者共証告書ノ通ニ有之候又本犯調書中校正
ノ儀申立ルト雖モ是亦規避陰蔽ノ為メニレテ現行
ノ儀ハ然テ証告書ノ通ニ有之候也

明治十四年十月十四日

静岡縣十等警部

北原

晋

静岡縣四等警部

香取新之助

檢事高津雄介殿

追申本犯豊太郎今般犯罪ノ儀ハ一朝一夕ノ儀ニ
無之就テハ尚是迄ノ来歴書取調中ニ付出来次第

及御交付候也

尚此外現場状況書民情視察書其他共前項ノ通取
調中ニ付追テ及御交付候也

証告書

駿河國有渡郡静岡兩替町四丁目拾番地前島格太郎
會主ニテ前島豊太郎外貳人ヲ演舌者トシテ政談演
舌ノ認可ヲ得明治十四年十月八日午後第六時過靜
岡寺町小川座ニ於テ開會候ニ付批者共三人ハ條例
ニ遵ヒ右會場ニ派遣シ監視罷在候處右前島豊太郎
儀現ニ批者共ノ目前ニ於テ歷代ノ御聖業ハ蜂須
賀小六ノ成立ト同一ナリ即大賊ノ第一等ト云主義
ヲ以左ノ通演說セリ

前島豊太郎曰諸君ヨ中畧抑モ天子ト云ハ皆有



リ難ソウニ思ヒ来レドモ次シテ左様ナルモノニ
 非ズ然レバドウエウモノデアルト云ハバ即チ大
 賊ノ第一等ナルモノナリ故ニ先ヅ衆人ガ彼天子
 ガ賊ナリ此天子ガ賊ナリト云ヒ例ヲ掲レハ彼
 ノ南北朝ト分レテ戦ヒシ天子ヲ衆儒等ガ此ノ天
 子ガ賊ナリ彼天子ガ正統ナリ又タ彼ノ天子ガ賊
 ナリ此ノ天子ガ正統ナリト相互ニ公論セシゲ水
 戸ノ黄門様ト云フ人始テ此レガ正統ニシテ彼ガ
 賊天子ナリト極ノラレタリ是等ハ扱置キ元来天
 子ト云フモノハ其始メ己レガ意ニ從ハザル者ヲ
 伐チ倒シ踐ミ倒シ切り倒シ而レテ遂ニ此國ヲ我
 ガ所有物ノ如クセシモノナリ因テ之ヲ一言ニシ
 テ云ハバ大賊ノ第一等ナルモノナリ然レモ己ニ

數千年来只難有難有ト架空ニアガツ来リタルヲ
 以テ皆真ニ難有イモノト思ヘドモ即チ拙者ガ今
 晚ノ演題事物ノ變遷ト云フモノ、如ク段々時變
 リ物遷リ来レバ其一ツモ難有クナイモノトハナ
 リタルニ付今更我々ガ如此事ヲ言フモ諸君ノ内
 ニハ或ハ御信用ノ無イ御方モ可有之候、共夫ニ
 就テハ誠ニ能キ實例有之ヲ以テ之ヲ証明ス可レ
 抑モ天子ノ成立ト云フモノハ彼ノ蜂須賀小六ノ
 成立ト少シモ不相異彼ノ小六ガ衆他ノ財産ヲ掠
 奪シ随ツテ又衆他ヲ又殺シ且ツ其戦勝ノ廉ヲ
 以テ遂ニハ天下ノ大名トカ云フ者ニナリ今日ニ至
 ツテモ如此者ノ子孫ガ矢張り華族トカ云フモノ
 ニ成リテ居ル様ナモノナリ之ニテ皆サン天子ハ

大賊ノ第一等ト云フヲ能ク明ラクニ御承リナ
サレタデアリマシヨウゴヨ就テハ所謂事物ノ妻
遷ト云程ヲ推テ妻遷セ子バ成リマスマイ然ラバ
衆他ノカラ團結ノ先ツ國會ト云フモノヲ興サバ
ル可カラザルナリ云々(以下畧之)

右果ツテ豊太郎退場セリ

右之通拙者共之目前ニ於テ恐レ多クモ聖祖ノ御威
業ニ對シ奉リ如此大不敬ノ所為ヲ犯シ遂ニハ國家
ノ安危ニモ可相係事件ニシテ即内乱ヲモ可相生次
第ニ付其現場犯罪ノ廉ノミ録載レ証告仕候也

一等巡查萩原友徳

明治十四年十月十二日

十等警部北原 晋

四等警部香取新之助

調書

問 其方ハ先刻小川座ニ於テ恐レ多クモ公衆ヲ集
メ且監視官ナル拙者等ノ目前ニ於テ天子ハ大賊

ノ第一等ナル者ナリ云々ト演舌セリ然ルニ其方
ノ大賊ノ第一等ナリト演ベラレタルハ蓋シ聖祖
神武天皇様ヲ指シ奉リタルモノカ又ハ蜂須賀小
六ヲ以右大賊ナリト云フ証例ニ引タルヲ以見レ
ハ蜂須賀小六頃ノ天子様ヲ指奉リタルモノカ又
ハ今上皇帝陛下ヲ指奉リタルモノカ乃至ハ御歴
代ヲ指奉リタルモノカ詳カニ申立テヨ

答 先刻ノ演舌ヲ箇様ニ御聞取被成候哉一体私ハ

天子様ヲ大賊ノ第一等ナリトハ申シマシタ積リ
テハ御坐リマセヌガ係シ左様御聞取ニナリマシ

タロウカ然レ私ハドウレテモ左様ハ申レマセ
又様ニ思ヒマシタ

問 イヤ言フタト言ワストノ事ハ現ニ拙者共其現

場ニ於テ確實ニ之ヲ聞取タルヲ以今敢テ此事ヲ
尋ヌルニ非ラズ即テ其節指シ奉リタル天子様ハ
何レノ御代ヲ指シ奉リシヤヲ問フノデアル

答 私ハドウ考ヘマシテモ天子様ヲ大賊ノ第一等

トハ申サヌ様ニ思ヒマスカ佞レ其節申シマシタ
天子様ノ事ハ神武天皇様ハ腕カヲ以天下ヲ治ソ
ナサレタトハ申シマシタガ佞レ大賊ノ第一等ナ
リトハタレカ申サヌ様デゴザリマシタ

問 然ハ其方ハドウシテモ只神武天皇様ハ腕カヲ
以天下ヲ御治ノナサレタトノミ之ヲ申スノミト

云カ

答 ハイ神武天皇様ハ全ク腕カヲ以天下ヲ御取リ
ナサレタトノミ申シマシタノデアリマシタ

明治十四年十月八日 前島豊太郎(拇印)

第一ノ御答中末文(様ニ)ノ二字ヲ(ト)ト申上候儀
ニ御坐候

第二ノ御答中第四行ノ(様)ハ(一)ニト申上候儀ニ
御坐候

明治十四年十月十日 前島豊太郎(拇印)

始末書

自 分 儀

今明治十四年十月八日午後第六時ヨリ静岡寺町小
川座ニ於テ政談演説會開場シ自 分 儀 左ノ通演説

ヲ成レタリ

曰ク吾輩此場ニ於テ諸君ニ向テ演説セントスルモノハ事物變遷論ニシテ世ノ中万事萬物時勢ニ随ツテ變遷スルモノナリ

此間略ス

先ツ其例ヲ舉ンニ天道左遷日月五緯右行トハ支那先哲ノ確言スル處ナリ然ルニ今世ニ至テハ地動説行ハレ云々肝要ニ非ザルハ詳細申供セズ人道亦然リ往時吾日本ノ歴史ニ依ルニ北朝ハ正統ニシテ南朝ハ偏統ナリト云ヒシモ大日本史ノ出ルニ及ンデ初テ南朝ノ正統タル事判然タリ支那モ亦然リ彼ノ三國ノ世ニガツテ魏ノ曹宗ハ正統ナリト司馬溫公ハ確之セシニ朱文公ハ蜀ノ玄德ヲ以正統

トシ魏吳ノ天子ヲ以偏黨トセリ依之視之レバ千載不拔ノ確言モ時有テ變ジ万古不易ノ卓見モ時世ニ随テ變遷セザルヲ得バ

此間略ス

故ニ去ル慶應三年卯十月徳川慶喜公ガ改権ヲ奉還シ字内ノ形勢ヲ察セラレタルハ最早天下ノ権ハ徳川家一己ノ掌握スベキ處ニ非ザレバナリ

是ヲ以テ明治元年戊辰ノ三月辱クモ吾ガ天皇陛下下ハ五ヶ條ノ御誓文ヲ以天下ニ誓ハセラレ万機公論ニ決ス可キ云々ト仰セ出サレタリ

然ルニ和漢古来ノ歴史ニ徴スルニ天子ハ賊徒ト諸君モ知ラル、阿州公ノ祖先蜂須賀小六ノ騷擾ニ乗ジテ一國ノ大寄トナラレタルト大小ノ別アレハ

何レモ腕カヲ以國ヲ取りタルモノナレバナリ是ヨ
リ君主專治ノ改体トナレリ
其後頼朝公霸府ヲ鎌倉ニ開ラキ北條九代足利十三
代乃至徳川氏ニ至ルモ何モ君主專治ノ改体ニノ君
民共治ノ立憲改体ニ非ズ又共和政治ニ非ルナリ云々
以下御尋問ノ要ニ非レハ畧ス
右之通相違不申上候

明治十四年十月十日

前 島 豊 太 郎 押 印

小川座演説場

監臨御出役

御中

参事院議按

別紙司法省伺演説者前島豊太郎犯罪處分方ノ件

審査スル處左ノ如シ

現行律ニ心條ナキヲ以テ讒謗律第二條ヲ援引處

分スルヲ尤當トス

右ニヨリ指令按左ノ通ニテ可然裁上申候也
十四年 十二月 二日